

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

-
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
 - (2) 「地域包括支援センター」の認知状況
 - (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
 - (4) 協力意向がある活動内容
 - (5) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況
 - (6) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂食状況
 - (7) 仕事と仕事以外の生活の調和
 - (8) 「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況
-

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

問40 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか
（○は1つだけ）。

※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

■【知っている】は2割台半ばで、「知らない（初めて聞いた）」が約7割

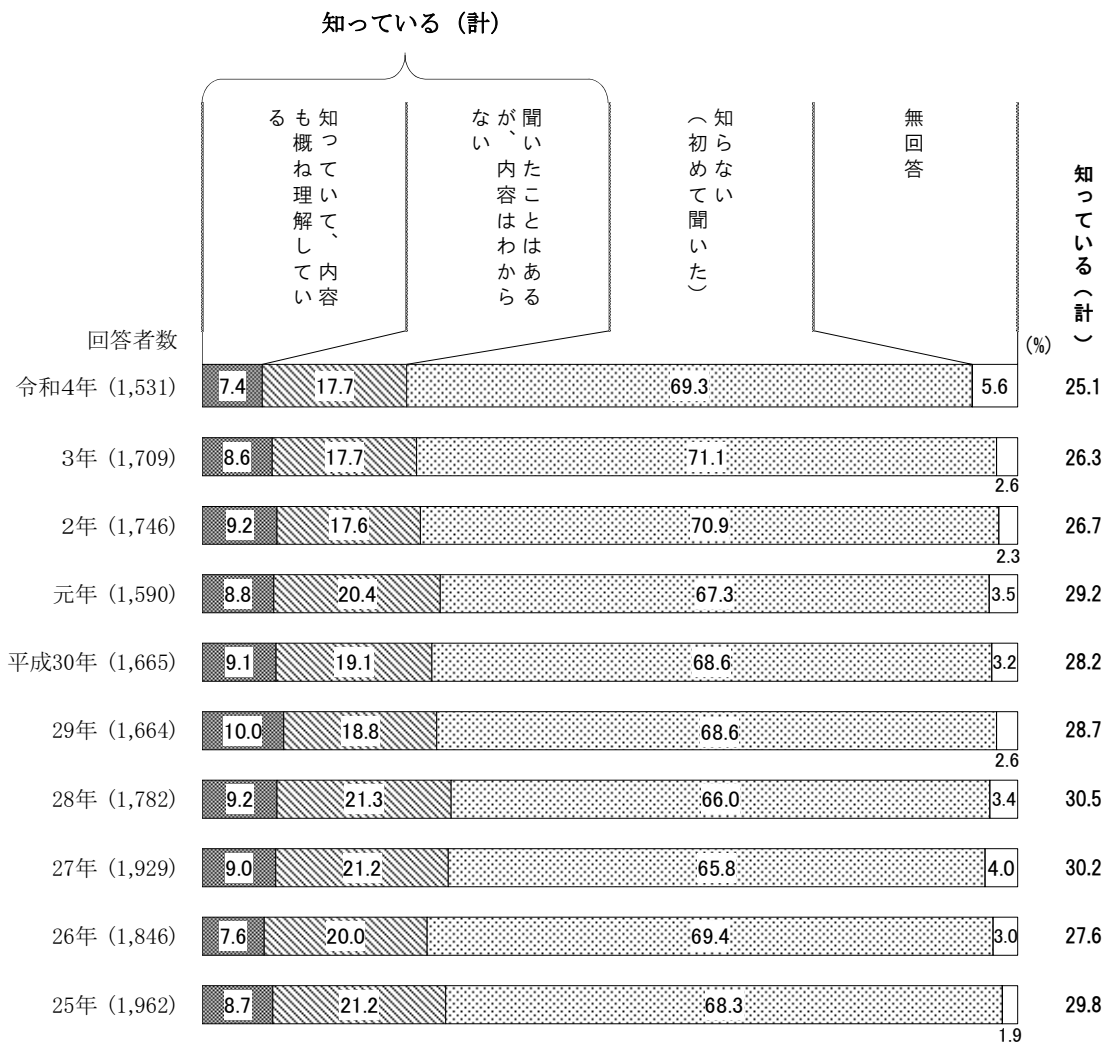
ア 単純集計・経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

(ア) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、「知っていて、内容も概ね理解している」が7.4%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の17.7%を合わせた【知っている】は25.1%となっている。

(イ) 「孤立ゼロプロジェクト」を「知らない（初めて聞いた）」は69.3%を占めている。

(ウ) 経年で見ると、認知状況の回答割合に大きな変動はみられないものの、【知っている】は令和元年調査以降微減傾向となっている。

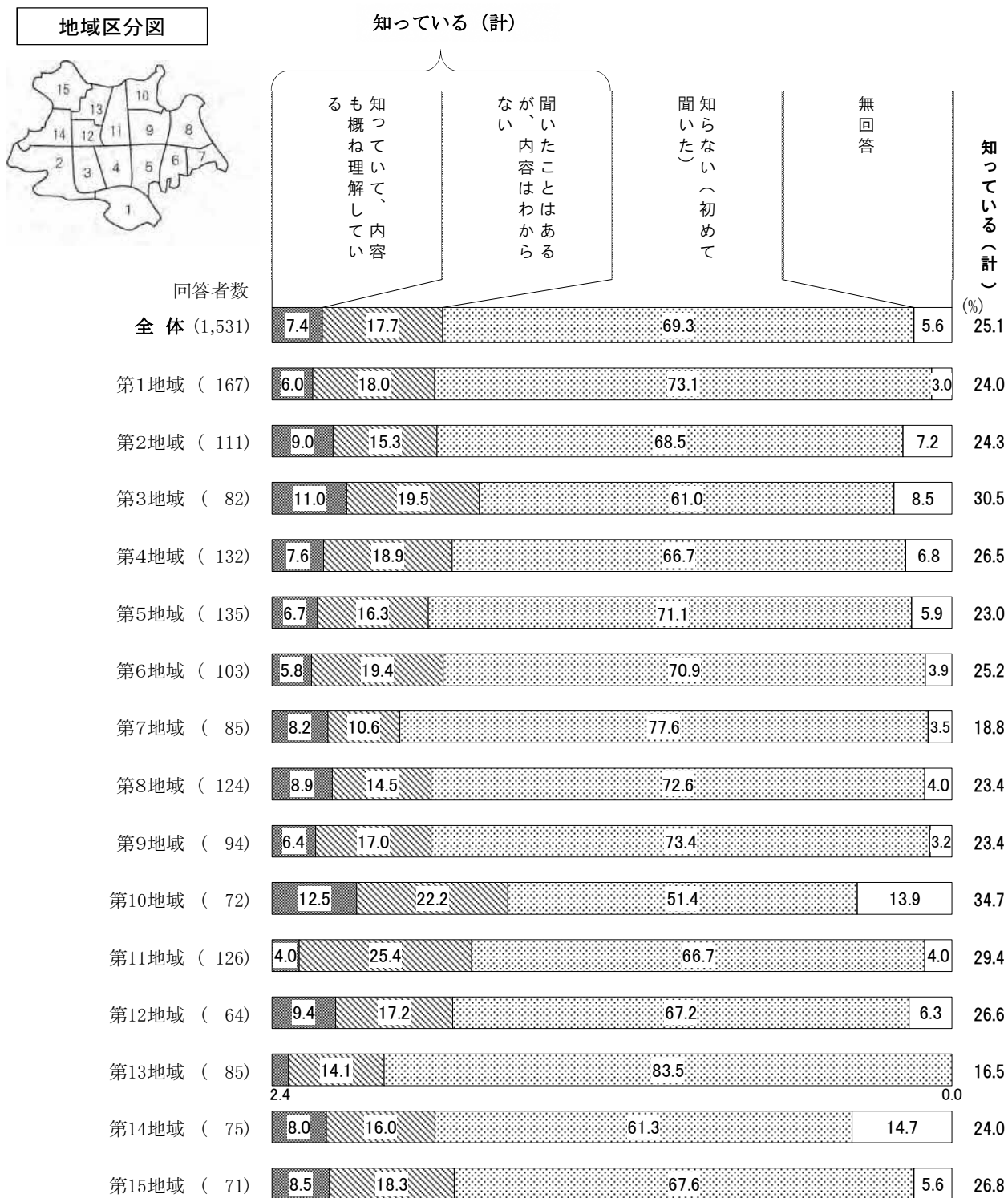
図9-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



イ クロス集計・地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

地域別でみると、【知っている】は第10地域が34.7%で最も高く、次いで第3地域と第11地域が3割前後で続いている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第13地域が83.5%で最も高くなっている。

図9-1-2 地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

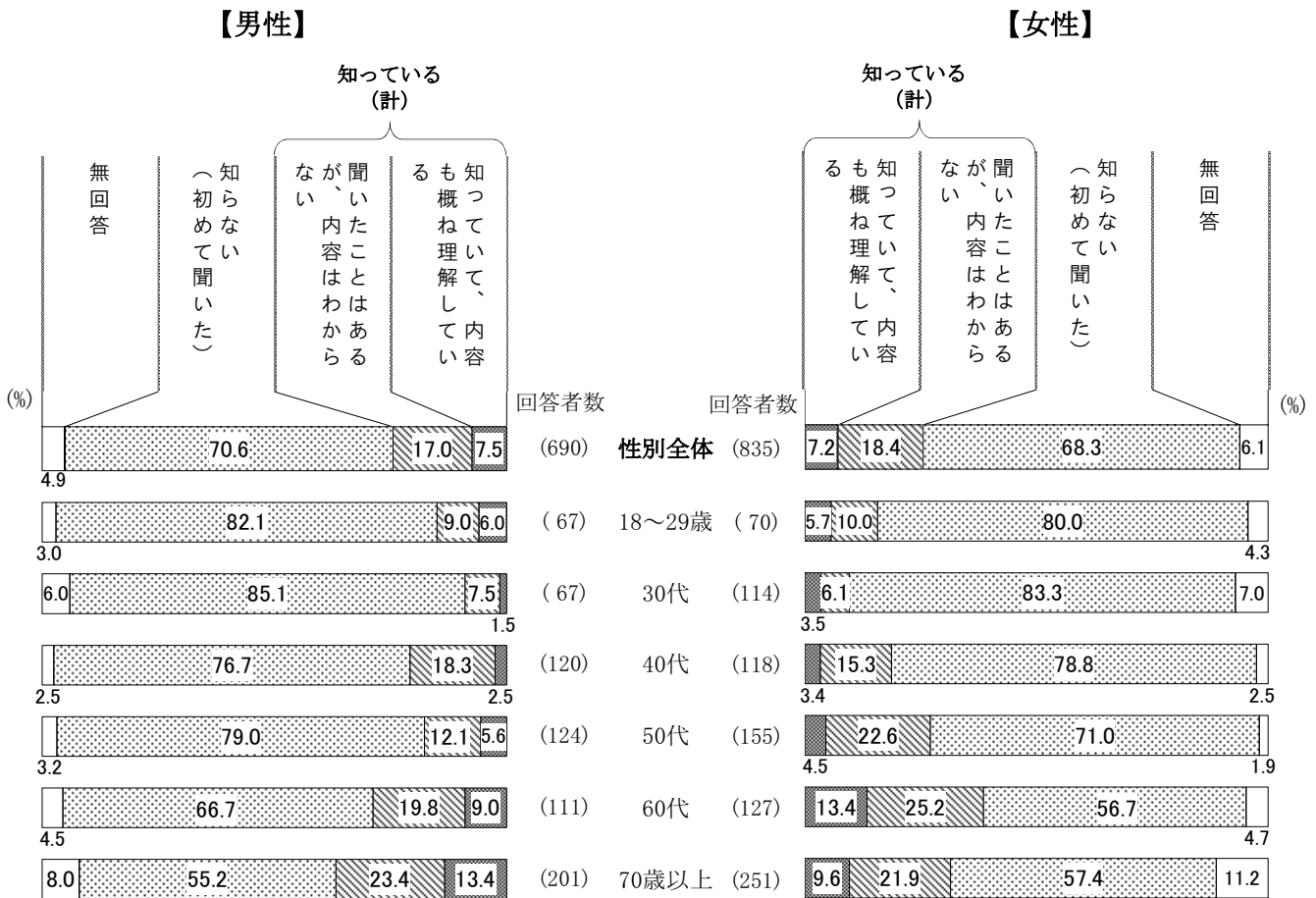


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

(ア) 性別で見ると、認知状況に特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の60代が38.6%と最も高く、次いで男性の70歳以上が36.8%となっている。一方、男女とも30代で1割弱と低くなっている。

図9-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



（2）「地域包括支援センター」の認知状況

問41 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※「地域包括支援センター」は、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の健康や介護に関する様々なご相談に応じています。

■【知っている】は漸増が続き、初めて6割台

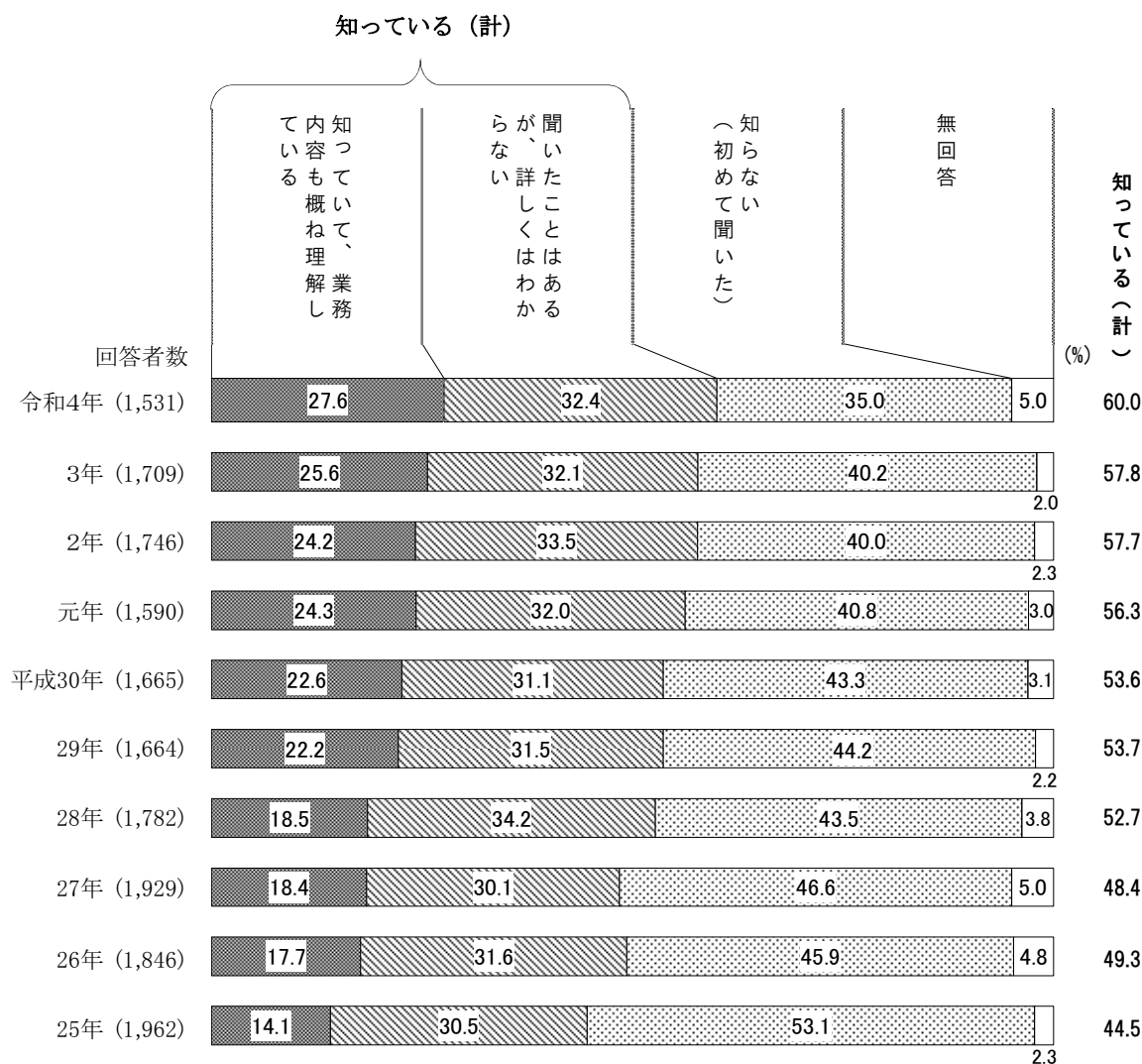
ア 単純集計・経年比較／「地域包括支援センター」の認知状況

（ア）「地域包括支援センター」について、「知っていて、業務内容も概ね理解している」が27.6%で、これに「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」（32.4%）を合わせた【知っている】は60.0%となっている。

（イ）「地域包括支援センター」を「知らない（初めて聞いた）」は35.0%であった。

（ウ）経年でみると、【知っている】は漸増を続け、本設問の開始以降初めて6割台となり、一方、「知らない（初めて聞いた）」（前回調査40.2%）は前回調査から5.2ポイントの減少となった。

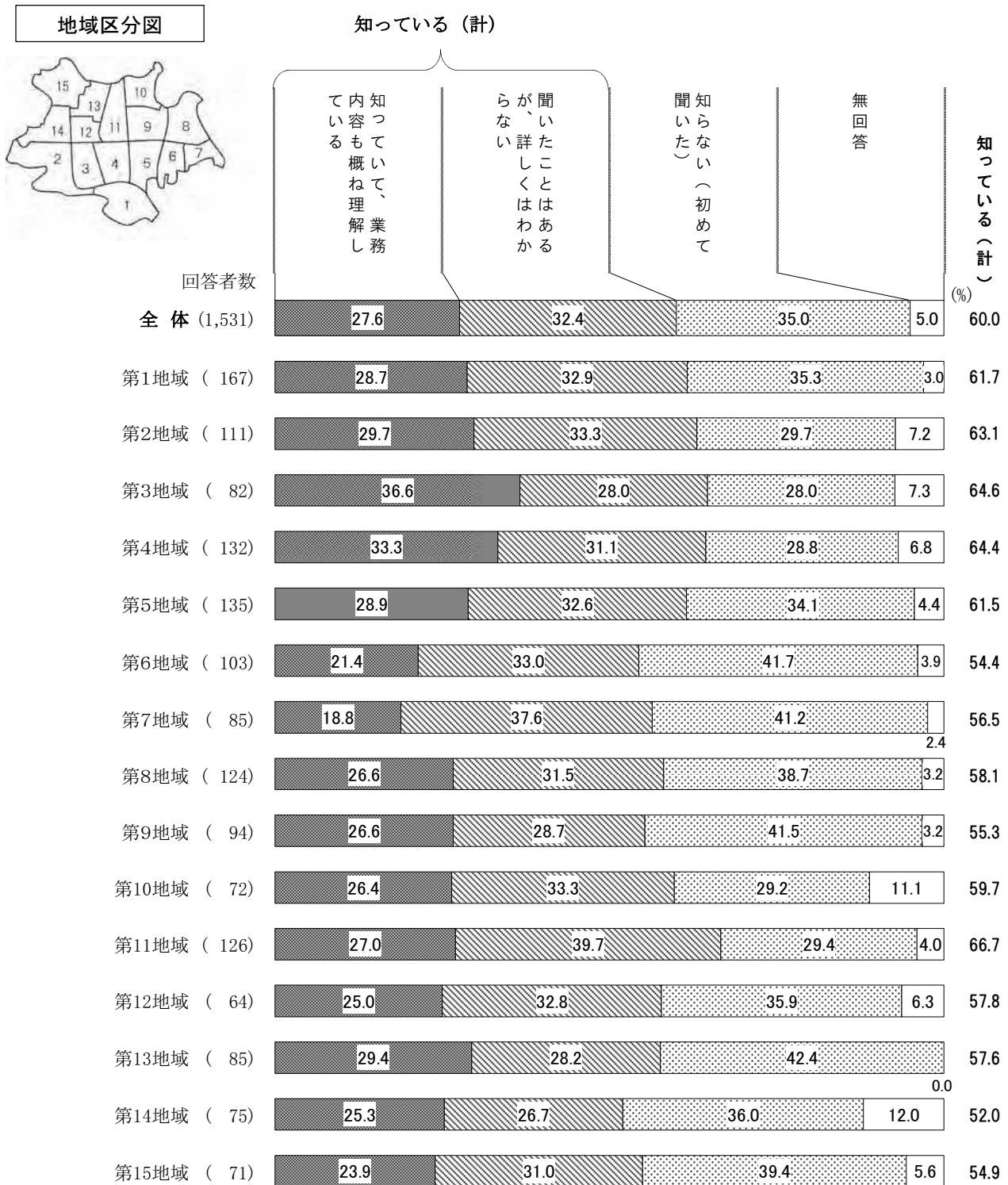
図9-2-1 経年比較／「地域包括支援センター」の認知状況



イ クロス集計・地域別／「地域包括支援センター」の認知状況

地域別でみると、【知っている】は、第11地域で66.7%と最も高く、次いで、第3地域(64.6%)と第4地域(64.4%)が僅差で続いている。一方、「知らない(初めて聞いた)」は、第13地域で42.4%と最も高く、次いで、第6地域(41.7%)、第9地域(41.5%)、第7地域(41.2%)などとなっている。

図9-2-2 地域別／「地域包括支援センター」の認知状況

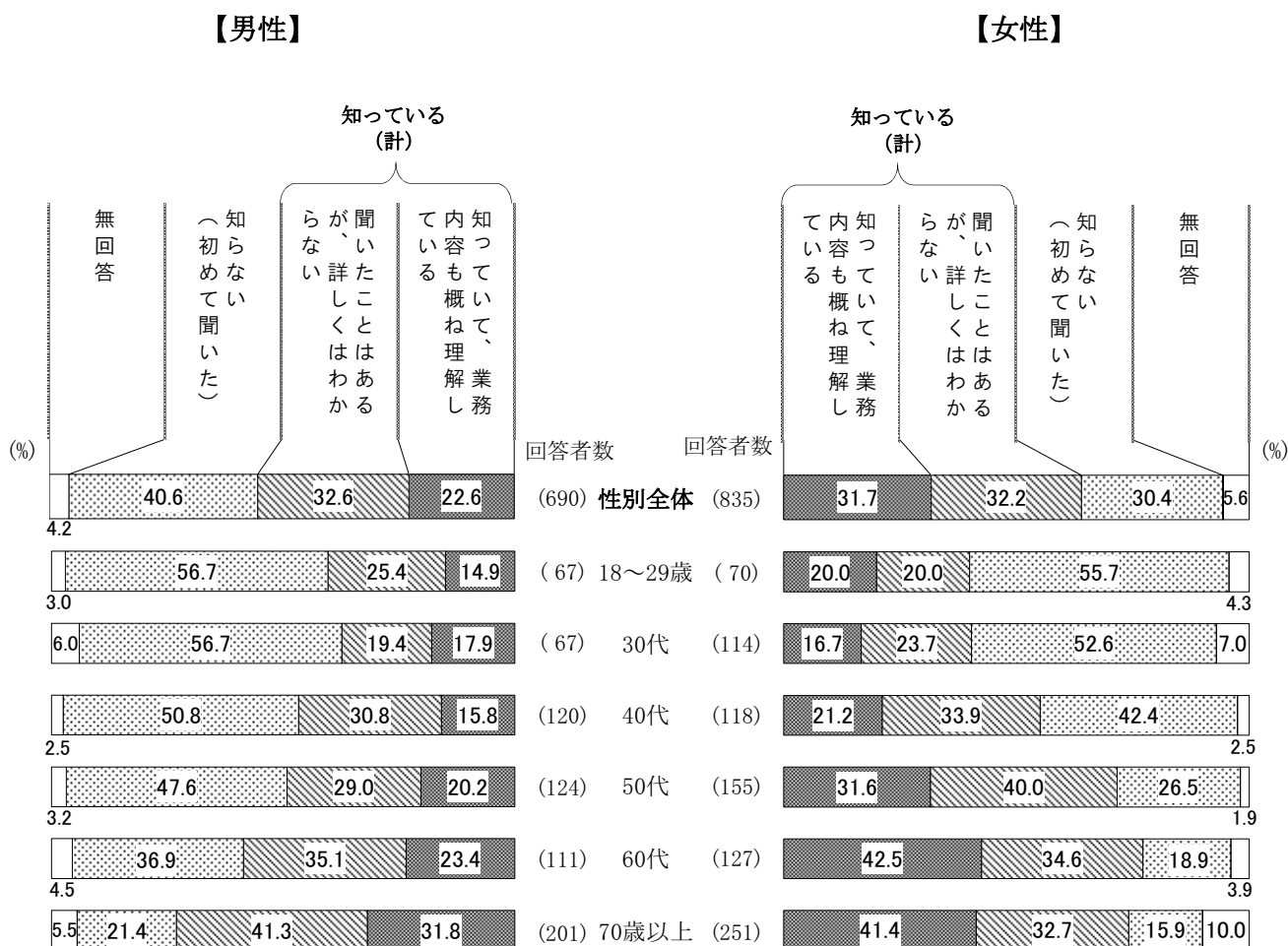


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「地域包括支援センター」の認知状況

(ア) 性別で見ると、【知っている】は女性（64.0%）の方が男性（55.2%）より8.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は、男女ともにおおむね年代が下がるほど割合も下がっており、女性の60代が77.2%で最も高く、男性の30代が37.3%で最も低くなっている。

図9-2-3 性別、性・年代別／「地域包括支援センター」の認知状況



（3）高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

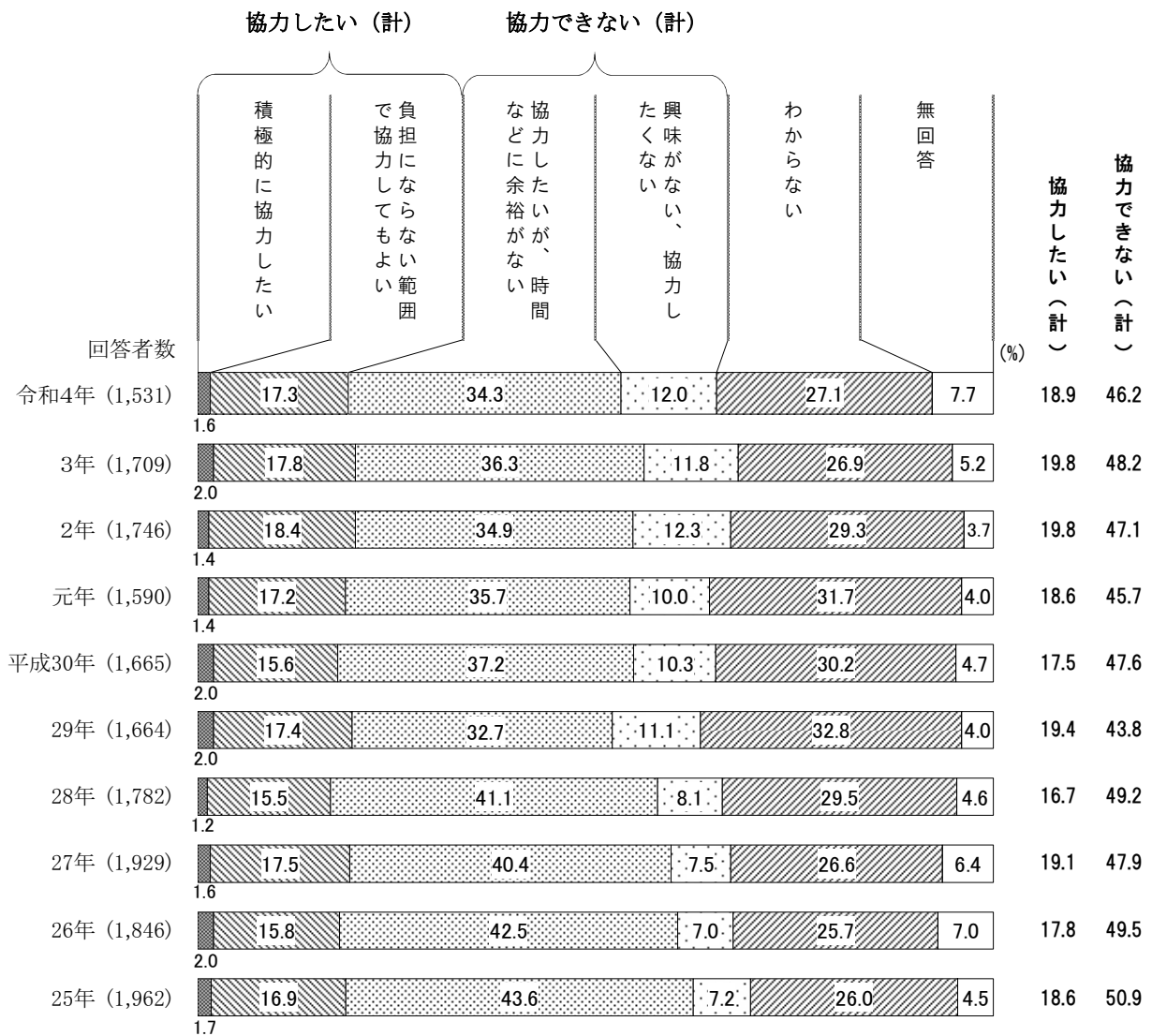
問42 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

■【協力したい】は2割弱で、前回から微減

ア 単純集計・経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

- （ア）高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は1.6%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」（17.3%）を合わせた【協力したい】は18.9%となっている。
- （イ）活動に「協力したいが、時間などに余裕がない」は34.3%で最も高く、これに「興味がない、協力したくない」（12.0%）を合わせた【協力できない】は46.2%となっている。
- （ウ）経年でみると、前回調査から特に大きな違いはみられない。

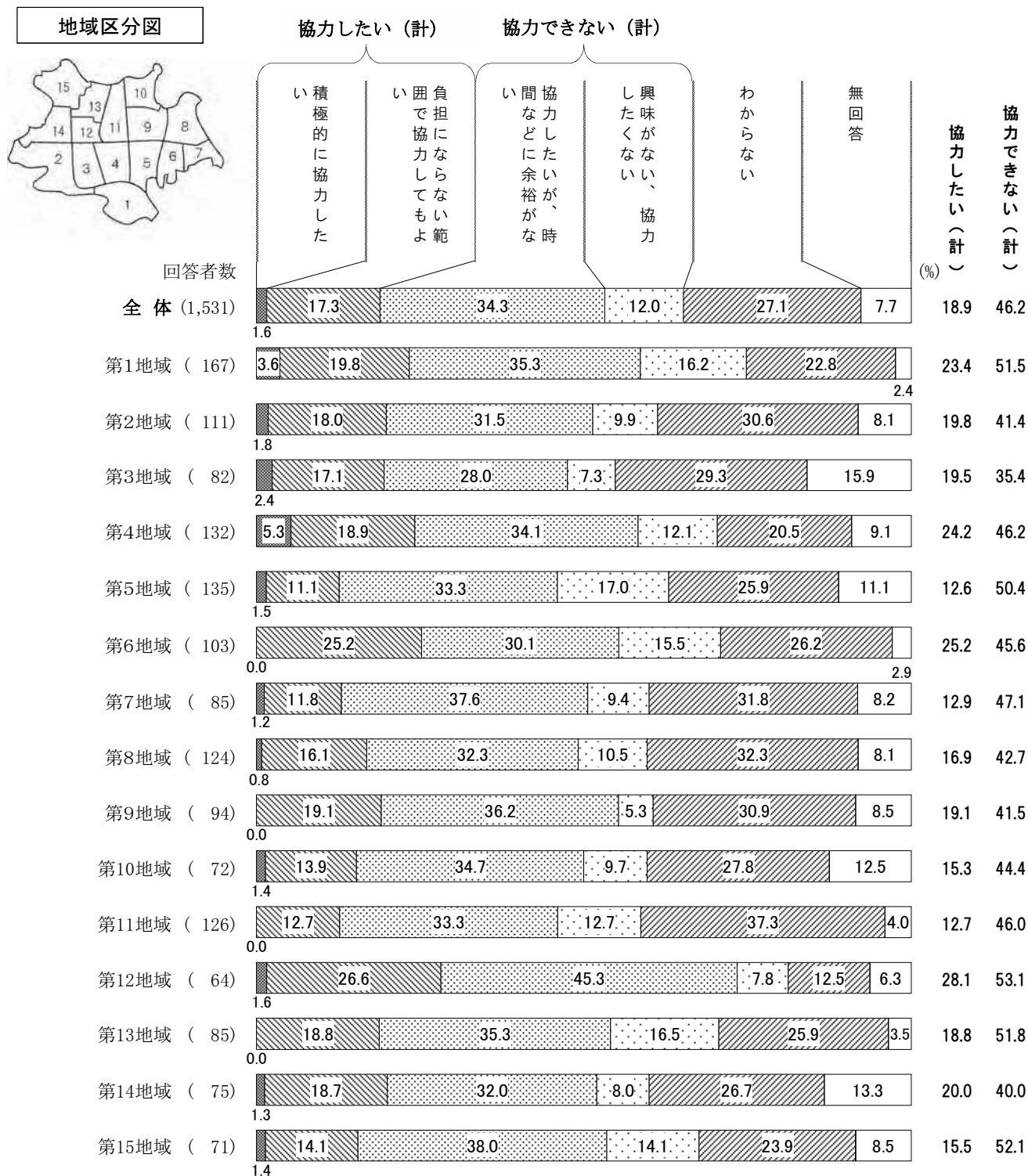
図9-3-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



イ クロス集計・地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

地域別でみると、【協力したい】は第12地域が28.1%で最も高く、次いで、第6地域と第4地域が2割台半ばで続いている。一方、【協力できない】は第12地域が53.1%と最も高く、次いで、第15地域と第13地域、第1地域が5割強で続いている。

図9-3-2 地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

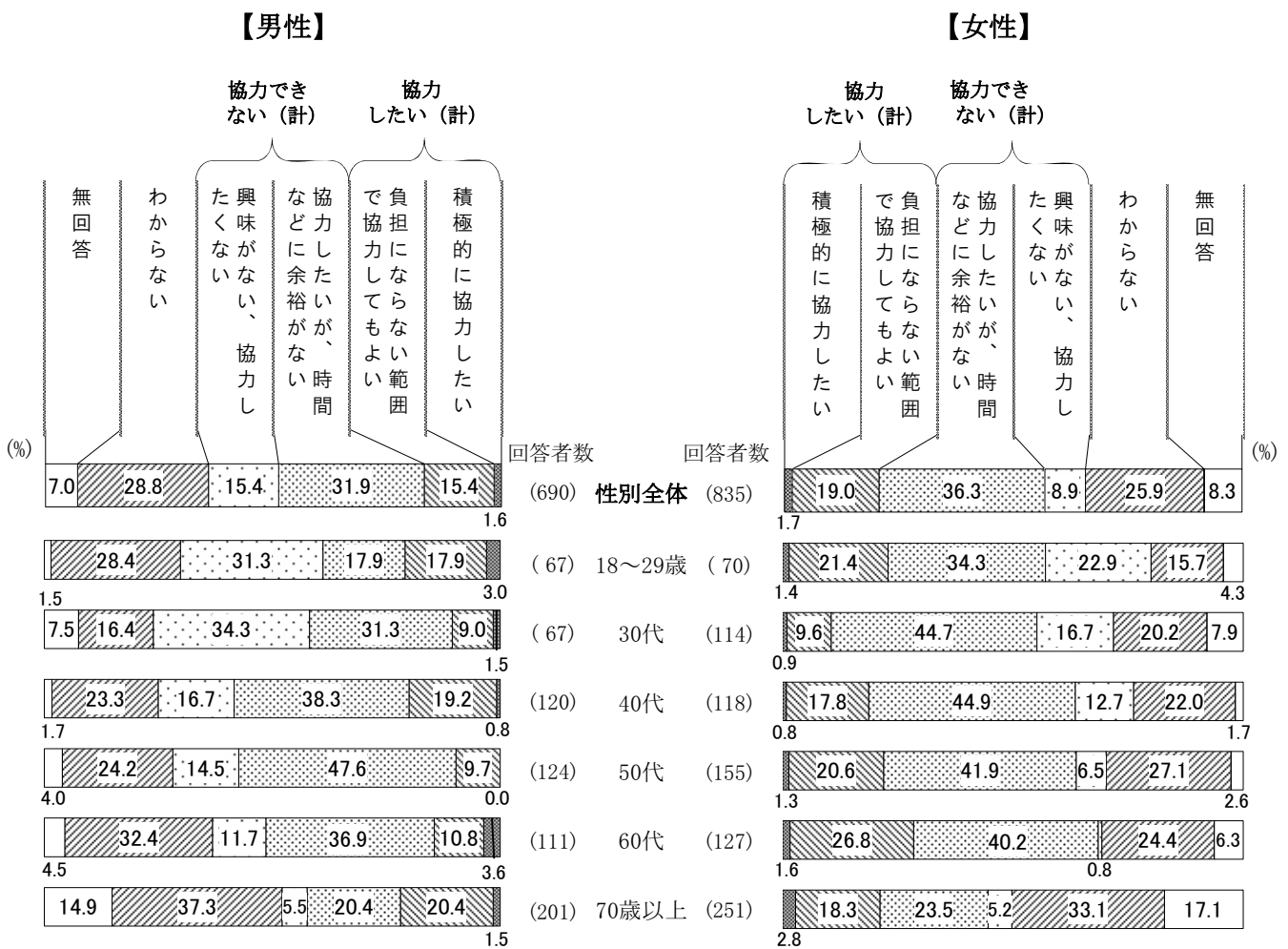


ウ クロス集計・性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

(ア) 性別でみると、【協力したい】は女性（20.7%）の方が男性（17.0%）より3.7ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【協力したい】は年代の高低での傾向はみられないが、女性の60代が28.3%で最も高く、次いで女性の18～29歳が22.9%となっている。一方、【協力できない】は、男性の30代が65.7%で最も高く、次いで男性の50代（62.1%）と女性の30代（61.4%）が6割強で続いている。

図9-3-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



（4）協力意向がある活動内容

問42で「1 積極的に協力～」または「2 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に
 問42-1 どのような活動に協力したいですか（○はあてはまるものすべて）。

■ “ちょっとした気づかいの活動”が5割強、“調査する活動”が4割

ア 単純集計・経年比較／協力意向がある活動内容

（ア）【協力したい】という人に、その活動内容を聞いたところ、高い順にみると以下のとおりとなっている。

- ① 「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」（51.0%）
- ② 『『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動』（40.0%）
- ③ 「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」（30.3%）
- ④ 「活動を支援するための寄付や基金などへの金銭的援助」（11.7%）

（イ）経年でみると、上位項目の順位に変動はみられないものの、「活動を支援するための寄付や基金などへの金銭的援助」は前回調査より6.6ポイント減少し、『『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動』は前回調査より3.0ポイント増加している。

図9-4-1-① 経年比較／協力意向がある活動内容

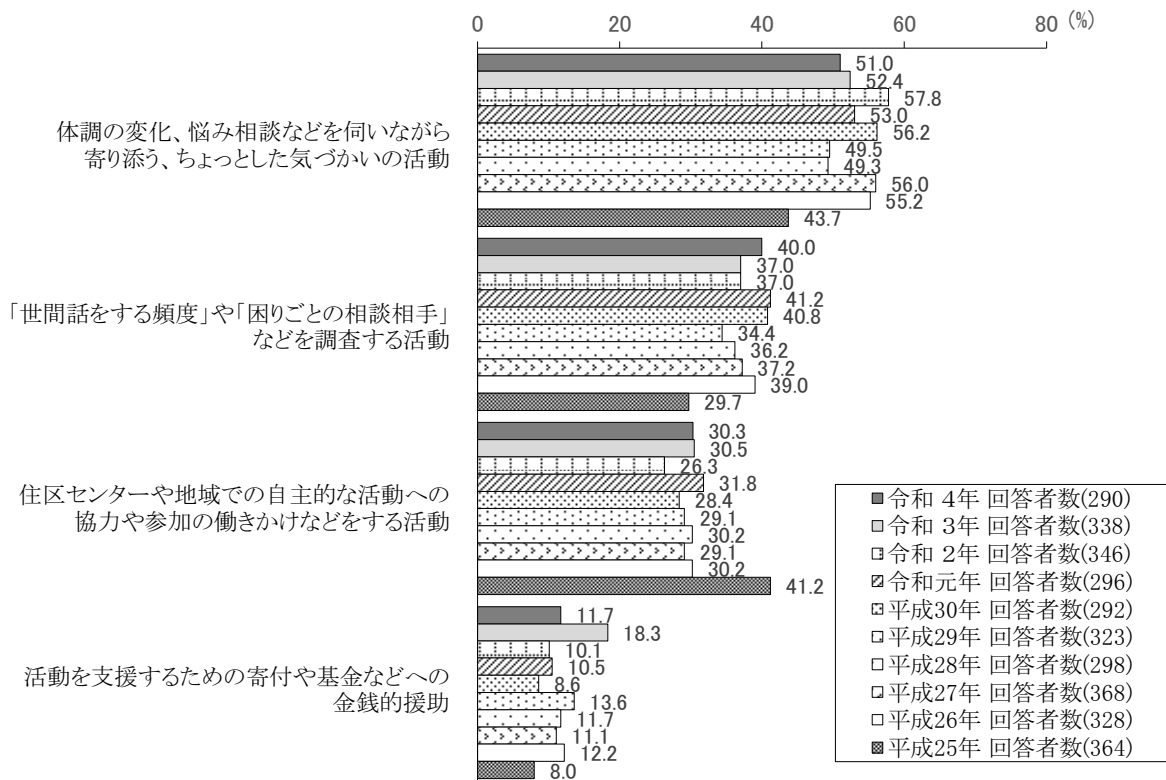
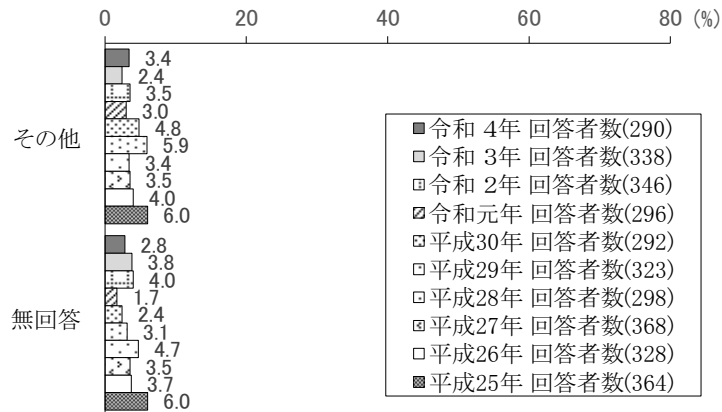


図9-4-1-② 経年比較／協力意向がある活動内容



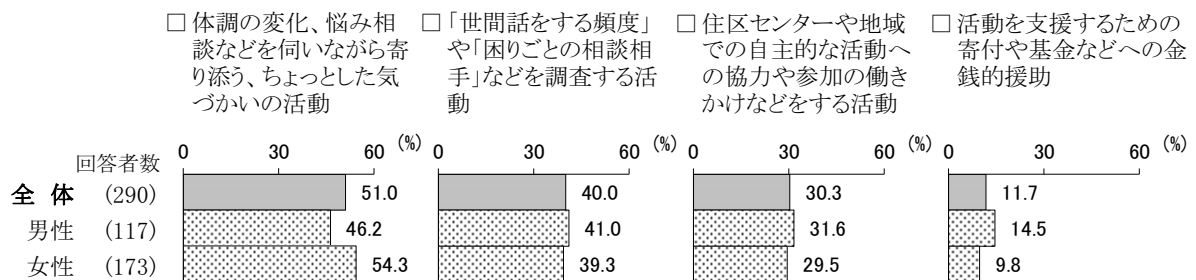
平成25年調査の選択肢について

- 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動＝平成25年調査：寄り添い支援活動
- 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動＝平成25年調査：調査活動
- 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動＝平成25年調査：居場所づくりや活動の場での協力
- 活動を支援するための寄付や基金等への金銭的援助＝平成25年調査：財政的協力

イ クロス集計・性別／協力意向がある活動内容

性別でみると、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」は女性（54.3%）の方が男性（46.2%）より8.1ポイント高く、「活動を支援するための寄付や基金などへの金銭的援助」では、男性（14.5%）の方が女性（9.8%）より4.7ポイント高くなっている。

図9-4-2 性別／協力意向がある活動内容



（5）「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

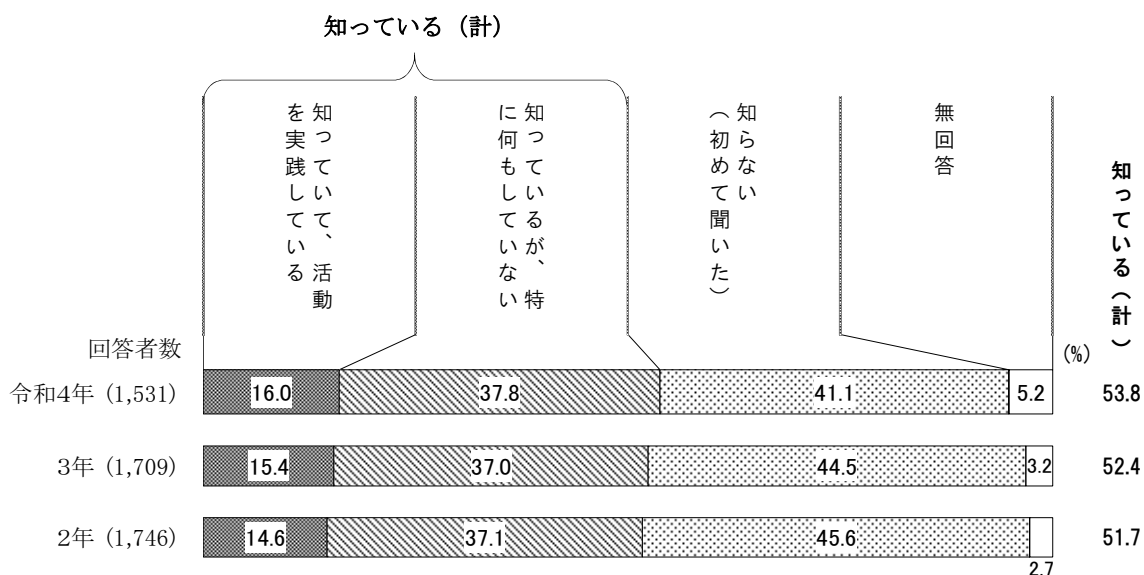
問43 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状態「フレイル」にならないために、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことを知っていますか（○は1つだけ）。

■【知っている】は5割半ば近くで、漸増が続く

ア 単純集計・経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

- （ア）「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことの認知とその実践状況は、「知っていて、活動を実践している」は16.0%となっており、これに「知っているが、特に何もしていない」（37.8%）を合わせた【知っている】は53.8%となっている。
- （イ）「フレイル」にならないための活動について「知らない（初めて聞いた）」は41.1%となっている。
- （ウ）経年でみると、「知らない（初めて聞いた）」（前回調査44.5%）は前回から3.4ポイントの減少となっている。

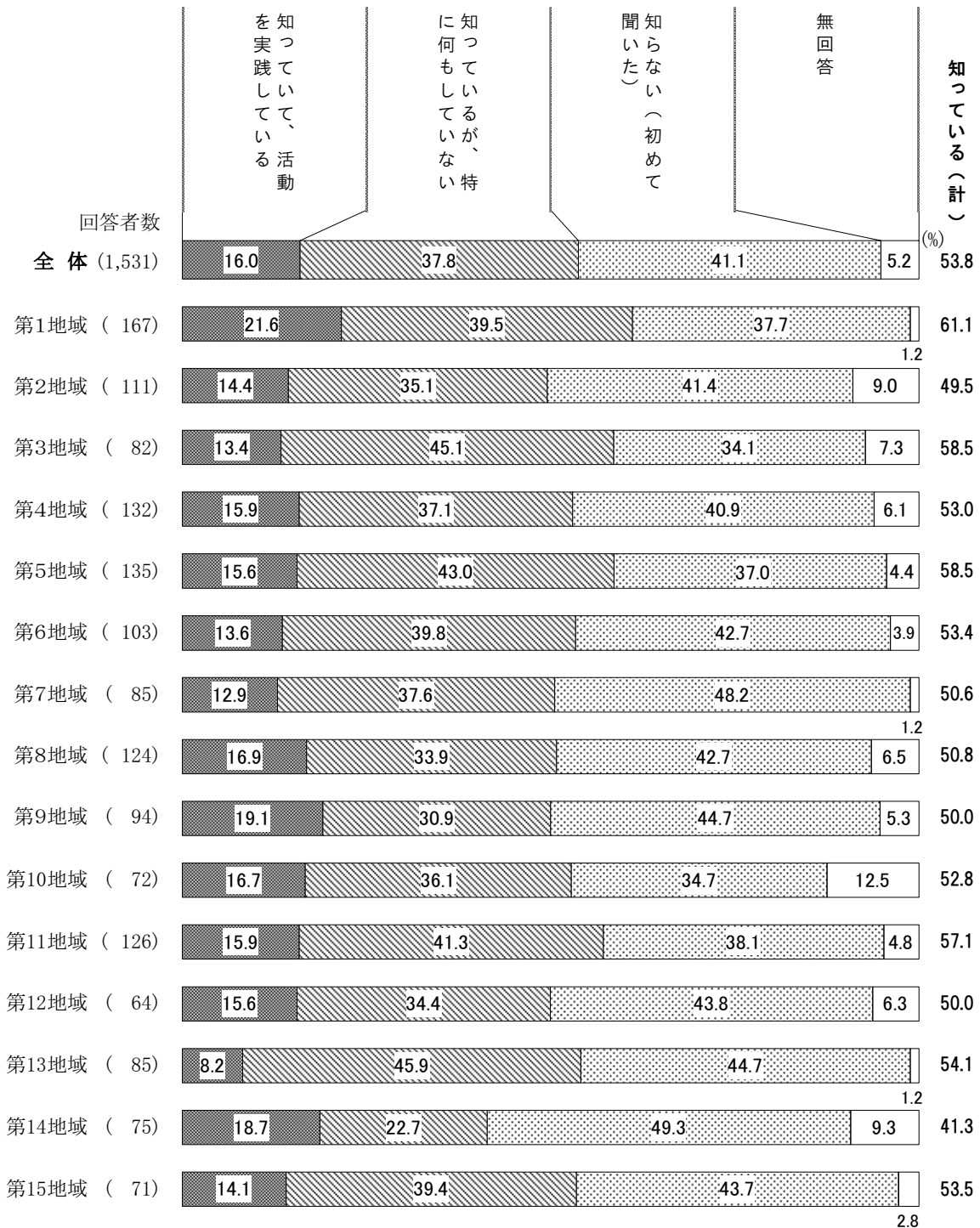
図9-5-1 経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



イ クロス集計・地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

地域別でみると、「知っていて、活動を実践している」は第1地域が21.6%で最も高く、これに第9地域（19.1%）、第14地域（18.7%）が続いている。【知っている】でみると、第1地域が61.1%で最も高く、次いで第3地域と第5地域がともに58.5%で続いている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第14地域が49.3%で最も高くなっている。

図9-5-2 地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

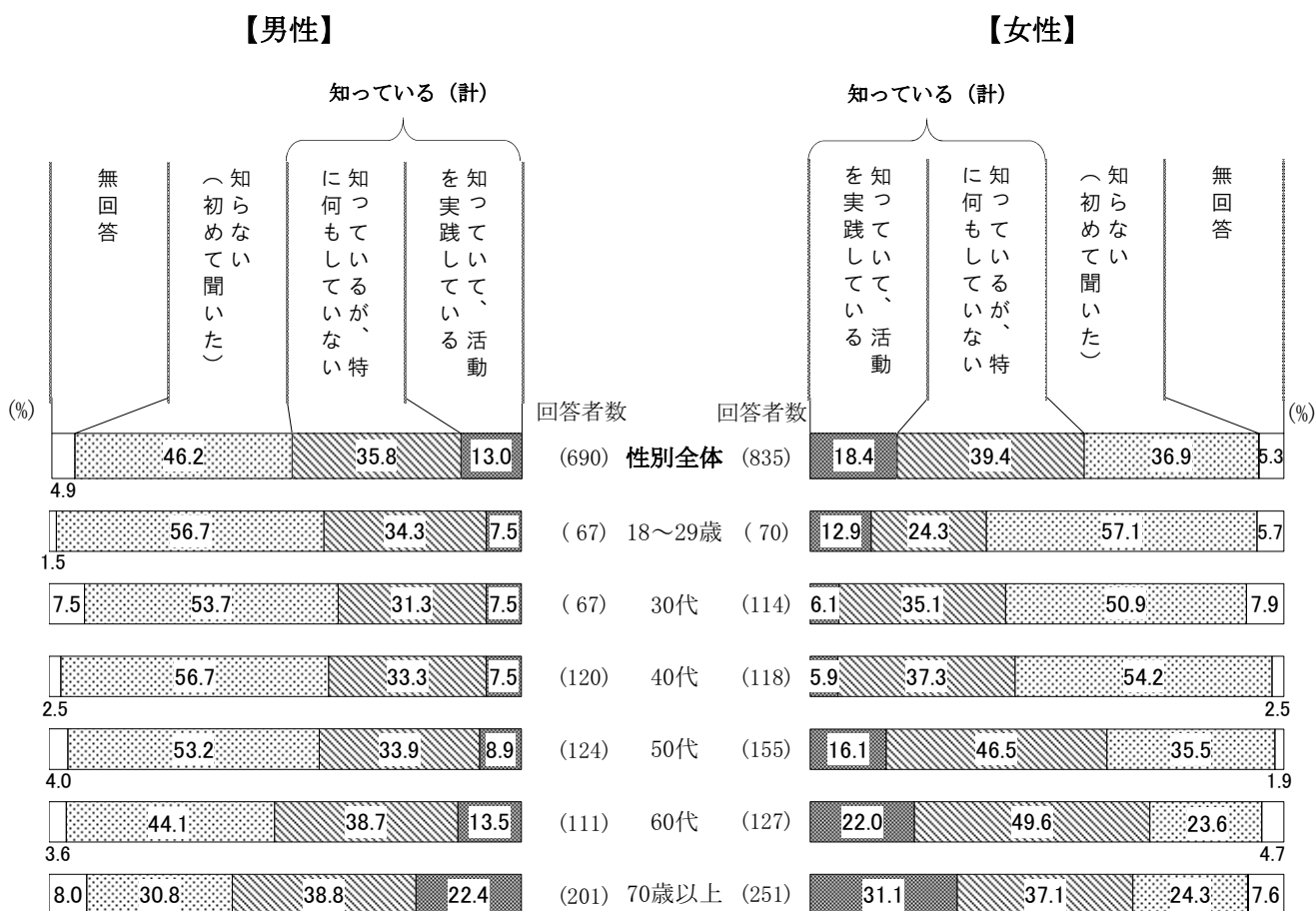


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

(ア) 性別でみると、【知っている】は女性（57.8%）の方が男性（48.8%）より9.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【知っている】は、女性の60代が71.7%で最も高く、次いで女性の70歳以上が68.1%で続いている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は女性の18～29歳が57.1%で最も高く、僅差で男性の18～29歳と男性の40代（ともに56.7%）となっている。

図9-5-3 性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



(6) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂食状況

問44 あなたは、たんぱく質を多く含む食品（肉・魚・卵・大豆製品の1種類以上）をどれくらいの頻度で食べていますか（○は1つだけ）。

※「フレイル」になる要因の一つとして、たんぱく質の不足があげられます。

■「毎食（1日3回）食べている」が2割、「1日2回位食べている」が3割弱

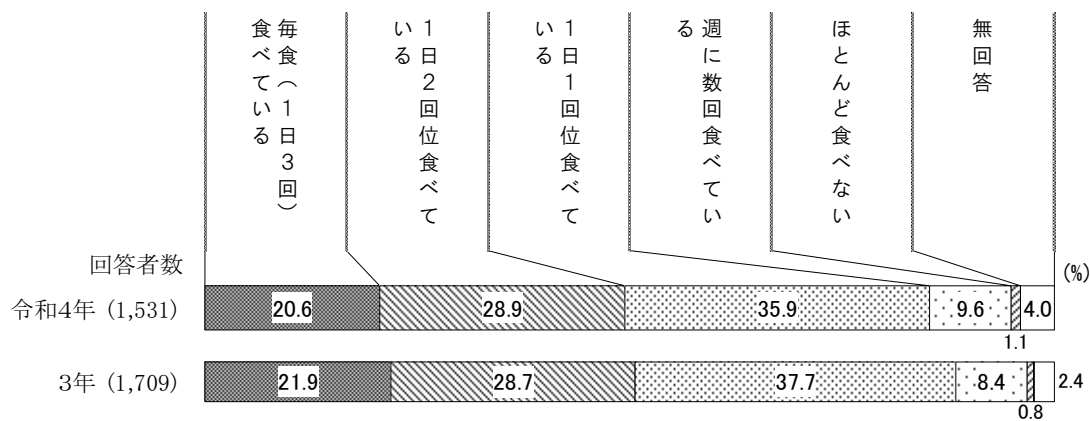
ア 単純集計・前回調査比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

(ア)「たんぱく質を多く含む食品」の摂食頻度は、高い順にみると以下のとおりとなっている。

- ①「1日1回位食べている」(35.9%)
- ②「1日2回位食べている」(28.9%)
- ③「毎食（1日3回）食べている」(20.6%)
- ④「週に数回食べている」(9.6%)
- ⑤「ほとんど食べない」(1.1%)

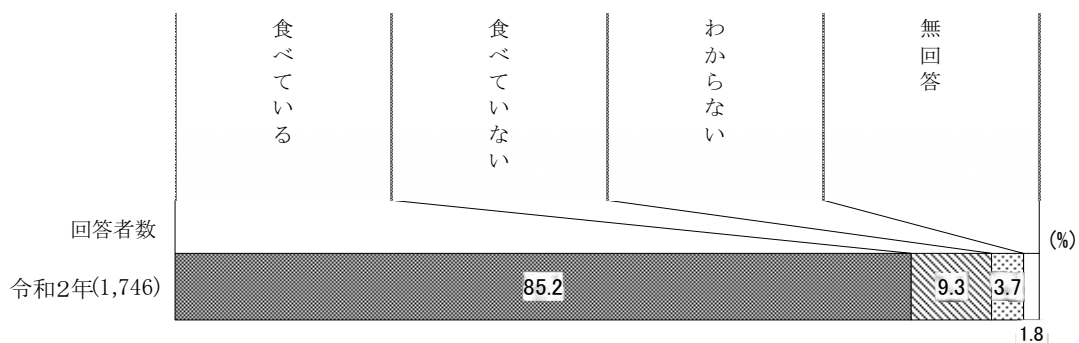
(イ) 前回の令和3年調査との比較では、回答割合に特に大きな違いはみられない。

図9-6-1 前回調査比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況



参考／（令和2年調査）「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況

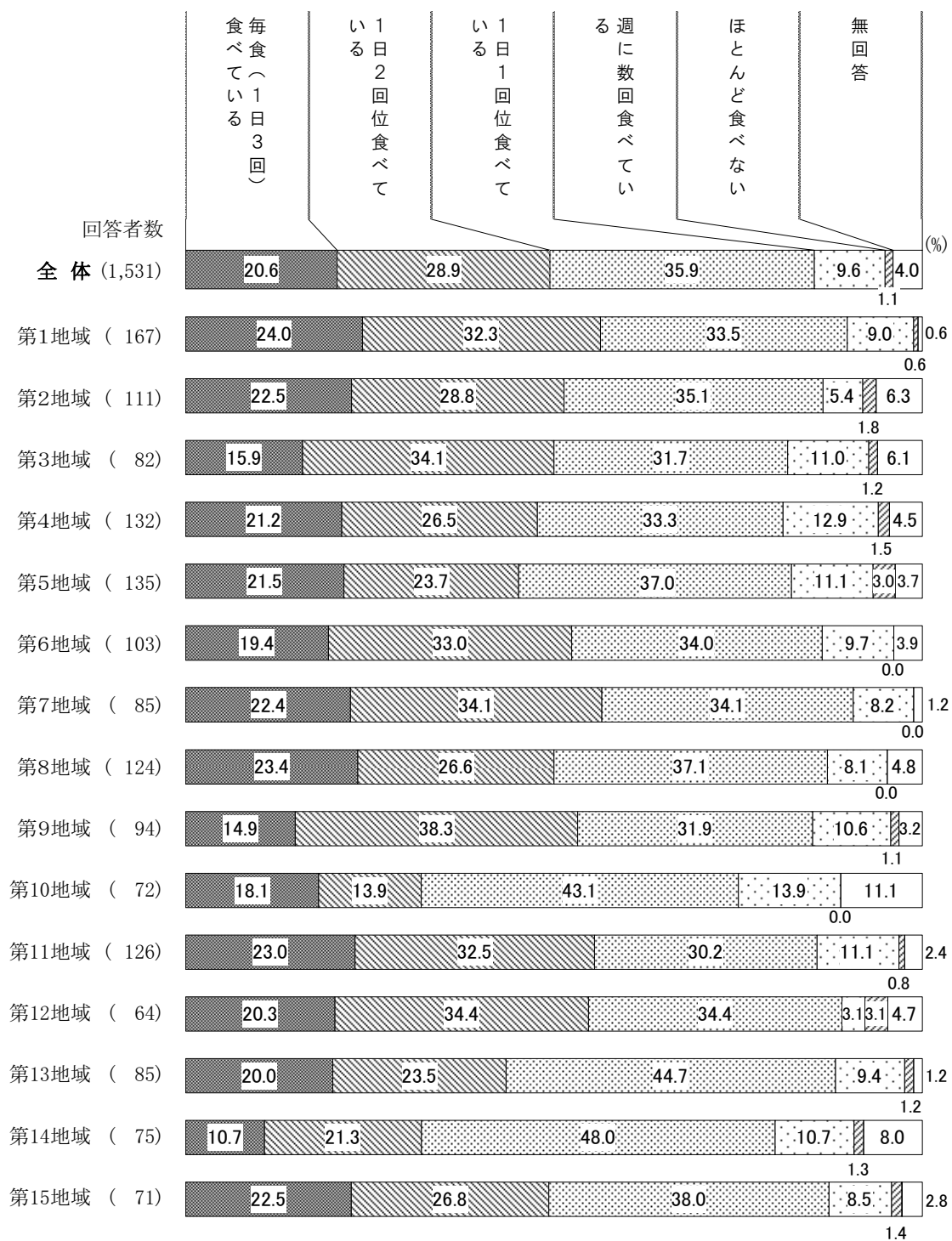
問 あなたは毎食、たんぱく質を多く含む食品（肉・魚・卵・大豆製品）を1種類以上食べていますか（○は1つだけ）。



イ クロス集計・地域別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

地域別でみると、「毎食（1日3回）食べている」は第1地域が24.0%で最も高く、僅差で第8地域（23.4%）、第11地域（23.0%）が続いている。逆に、第14地域が10.7%で他の地域に比べて特に低くなっている。

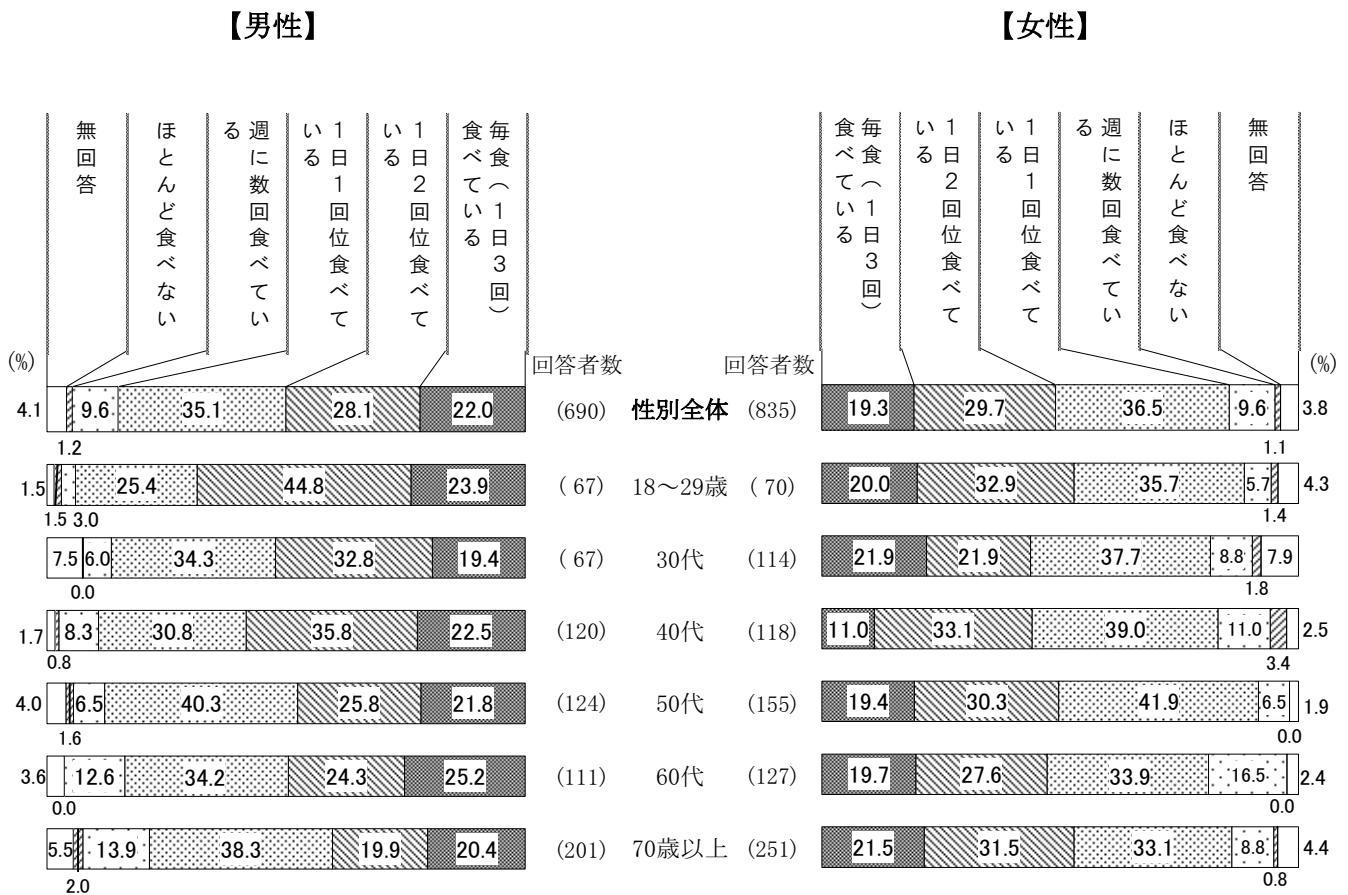
図9-6-2 地域別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況



ウ クロス集計・性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

- (ア) 性別で見ると、「毎食（1日3回）食べている」は男性（22.0%）の方が女性（19.3%）より僅かに高いものの、特に大きな違いはみられない。
- (イ) 性・年代別で見ると、「毎食（1日3回）食べている」は、男性の60代が25.2%で最も高く、次いで、男性の18～29歳（23.9%）となっている。逆に、女性の40代が11.0%で他の性・年代層に比べて特に低くなっている。

図9-6-3 性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況



（7）仕事と仕事以外の生活の調和

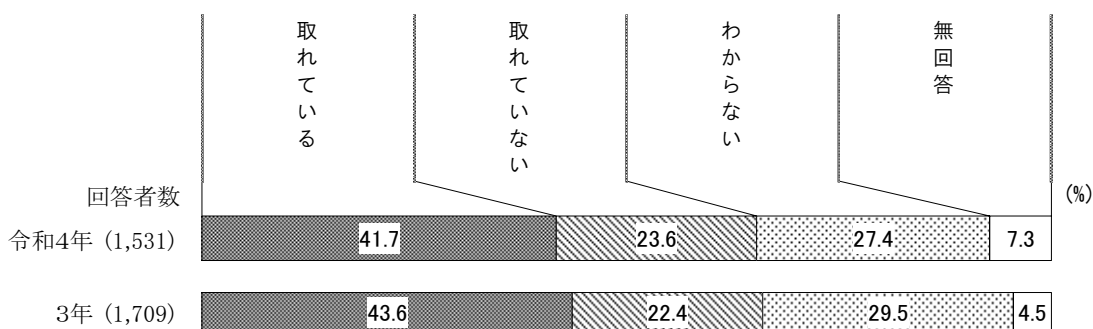
問45 あなたは、仕事と仕事以外の生活の調和が取れていると思いますか（○は1つだけ）。

■「取れている」が4割強で、「取れていない」が2割台半ば近く

ア 単純集計・前回調査比較／仕事と仕事以外の生活の調和

- （ア）仕事と仕事以外の生活の調和について、「取れている」が41.7%で、「取れていない」(23.6%)を上回っている。一方、「わからない」は27.4%であった。
- （イ）本設問が新設された前回の令和3年調査との比較では、回答割合に大きな違いはみられない。

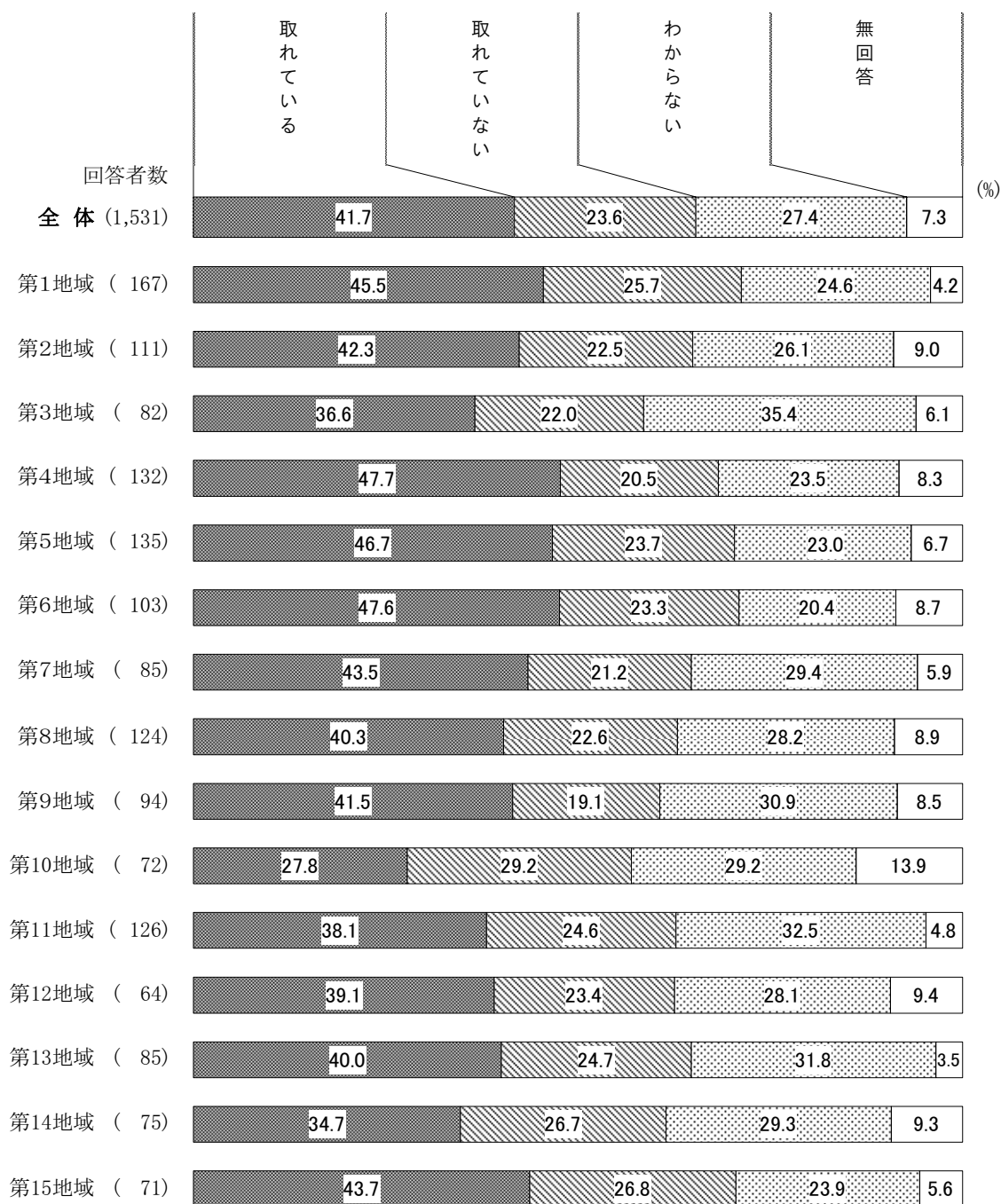
図9-7-1 前回調査比較／仕事と仕事以外の生活の調和



イ クロス集計・地域別／仕事と仕事以外の生活の調和

地域別でみると、「取れている」は第4地域が47.7%で最も高く、次いで、第6地域(47.6%)と第5地域(46.7%)が僅差で続いている。一方、「取れていない」は第10地域が29.2%で最も高くなっている。

図9-7-2 地域別／仕事と仕事以外の生活の調和

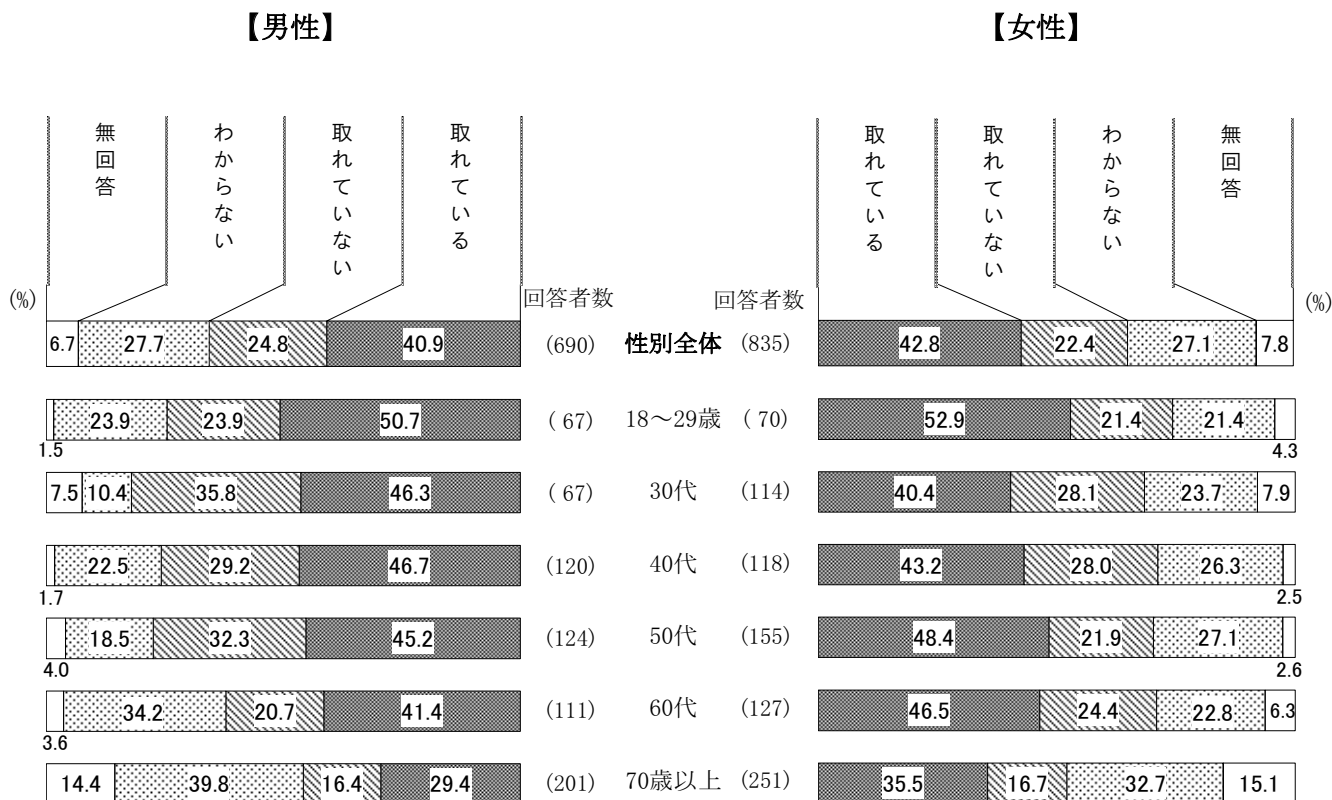


ウ クロス集計・性別、性・年代別／仕事と仕事以外の生活の調和

(ア) 性別で見ると、割合に特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、「取れている」は女性の18～29歳が52.9%で最も高く、次いで、男性の18～29歳が50.7%が続いている。一方、「取れていない」は、男性の30代が35.8%で最も高く、次いで、男性の50代が32.3%が続いている。

図9-7-3 性別、性・年代別／仕事と仕事以外の生活の調和



（8）「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

問46 あなたは、下記のア～ウについて知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

■【知っている】は「身体的暴力以外のDV」が8割強、「LGBT」が6割台半ば超

ア 単純集計・前回調査比較／「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

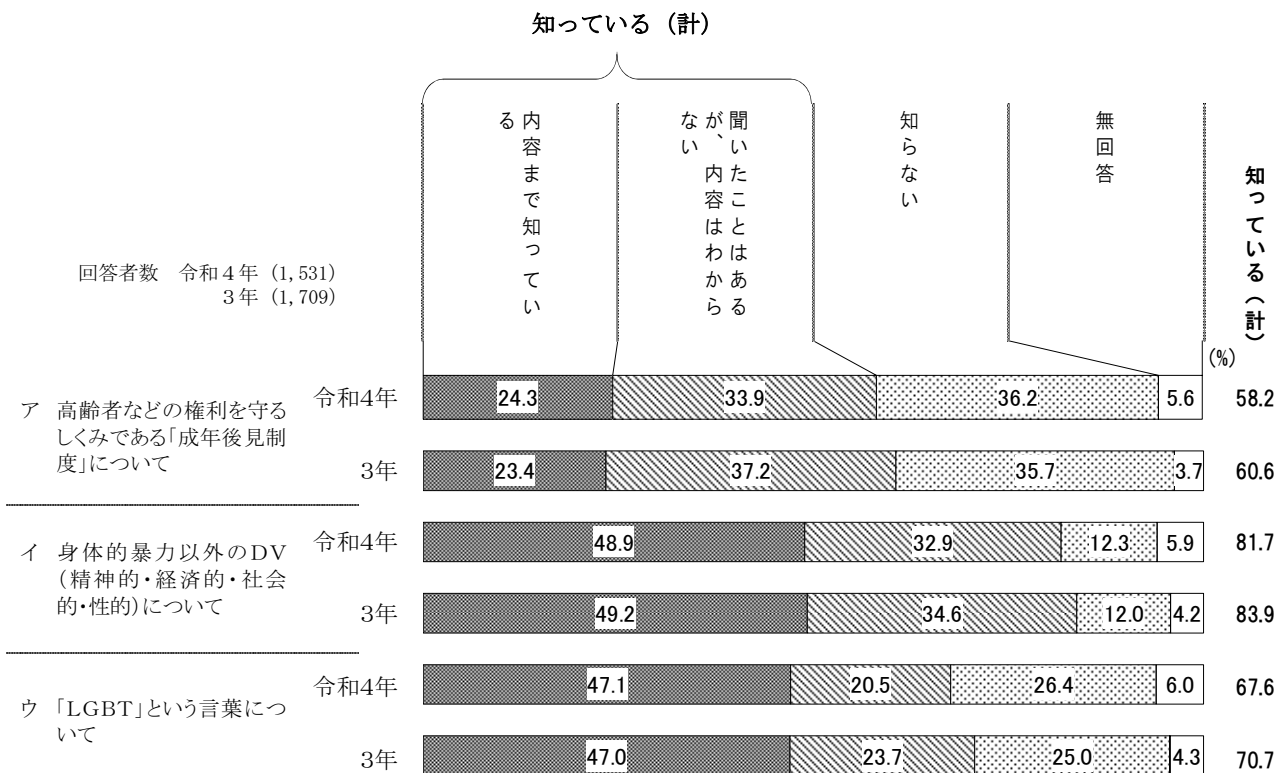
（ア）〈成年後見制度〉は、「内容まで知っている」が24.3%で、「聞いたことはあるが、内容はわからない」（33.9%）を合わせた【知っている】は6割弱となっている。一方、「知らない」は36.2%となっている。

（イ）〈身体的暴力以外のDV〉は、「内容まで知っている」が48.9%で最も高く、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」（32.9%）を合わせた【知っている】は8割強となっている。一方、「知らない」は12.3%となっている。

（ウ）〈LGBT〉は、「内容まで知っている」が47.1%と最も高く、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」（20.5%）を合わせた【知っている】は6割台半ば超えとなっている。一方、「知らない」は26.4%となっている。

（エ）本設問が新設された前回の令和3年調査との比較では、〈成年後見制度〉と〈身体的暴力以外のDV〉については、回答割合に特に大きな違いはみられないが、〈LGBT〉は【知っている】が前回調査に比べて3.1ポイント減少している。

図9-8-1 前回調査比較／「成年後見制度」「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況



イ クロス集計・性別、性・年代別

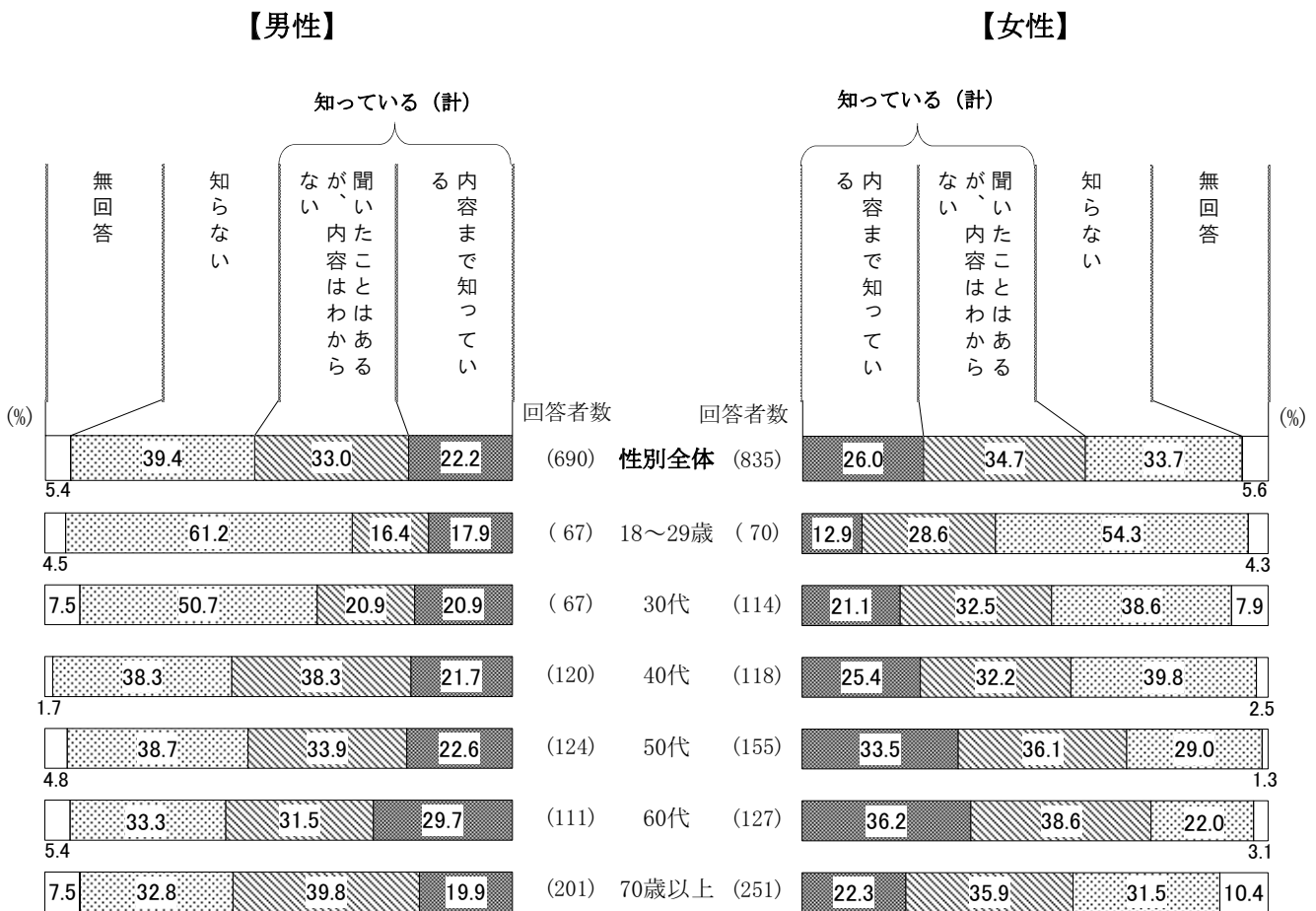
／高齢者などの権利を守るしくみである「成年後見制度」について

(ア) 〈成年後見制度〉の認知状況を性別で見ると、【知っている】は女性（60.7%）の方が男性（55.2%）より5.5ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の60代が74.8%で最も高く、次いで、女性の50代が69.7%で続いている。一方、「知らない」は男性の18～29歳が61.2%で最も高く、次いで、女性の18～29歳（54.3%）となっている。

図9-8-2-① 性別、性・年代別

／高齢者などの権利を守るしくみである「成年後見制度」について



ウ クロス集計・性別、性・年代別

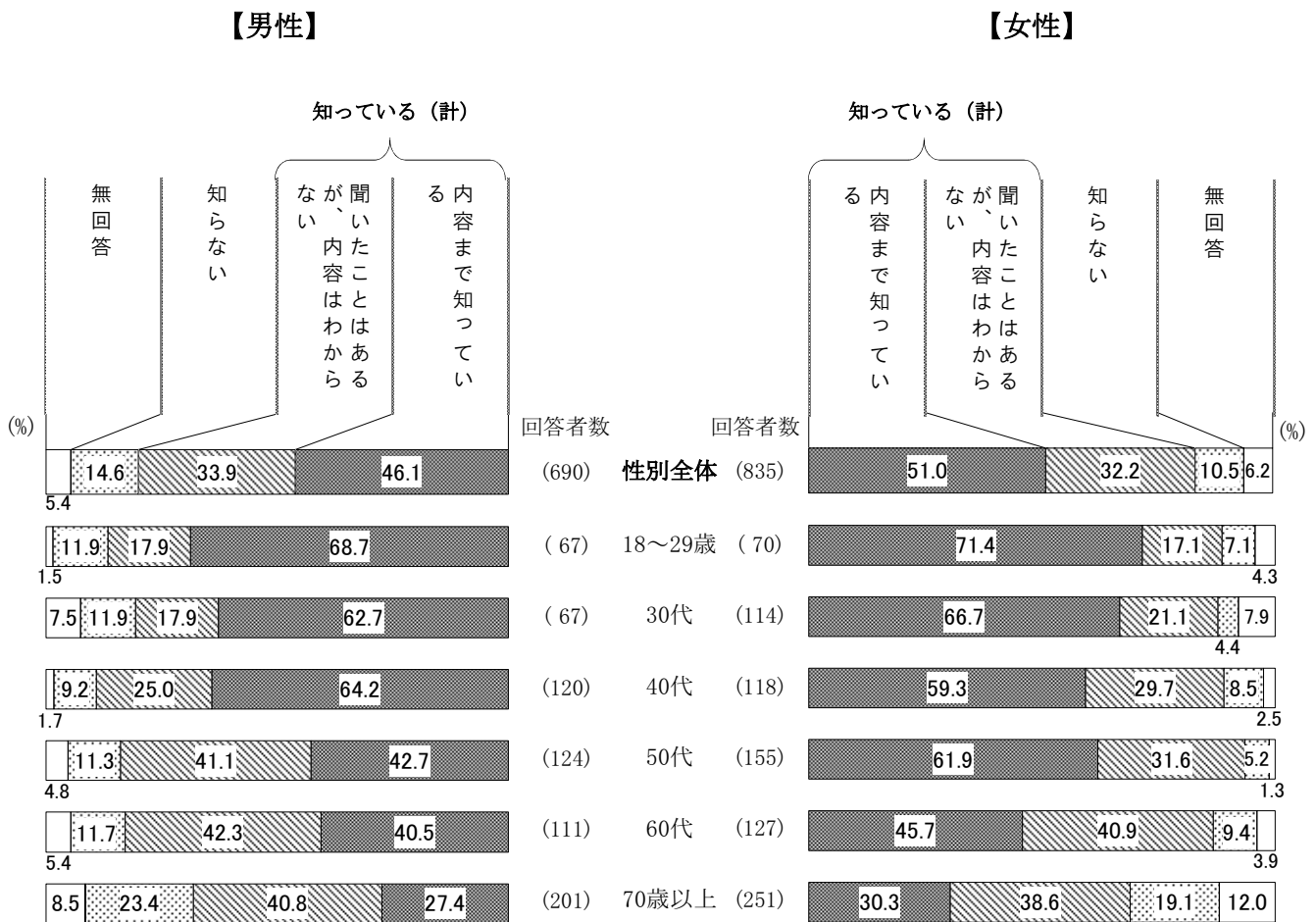
／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について

(ア) 〈身体的暴力以外のDV〉の認知状況を性別で見ると、【知っている】は女性（83.2%）の方が男性（80.0%）より3.2ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の50代が93.5%で最も高く、次いで男性の40代が89.2%で続いている。一方、「知らない」は男性の70歳以上が23.4%で最も高く、次いで女性の70歳以上（19.1%）となっている。

図9-8-2-② 性別、性・年代別

／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について



エ クロス集計・性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について

(ア) 〈LGBT〉の認知状況を性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の18～29歳が90.0%で最も高く、次いで、男性の18～29歳が89.6%で続いている。一方、「知らない」は、女性の70歳以上が50.2%で最も高く、次いで男性の70歳以上（47.8%）となっている。

図9-8-2-③ 性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について

